

報道関係各位

2020年7月30日

令和2年7月豪雨災害に対する支援について

7月上旬に発生した九州地域を中心とした豪雨（令和2年7月豪雨災害）により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

株式会社 LIXIL（以下 LIXIL）は、令和2年7月豪雨による被災者の皆さまの救済や被災地の復旧に役立てていただけるよう、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（以下 ジャパン・プラットフォーム）を通じて500万円の寄付することを決定しました。さらに、LIXIL 労働組合からは、日本赤十字社を通じて100万円の義援金の寄付を行いました。

また、現在 LIXIL は、熊本赤十字病院および株式会社 GK 設計と連携し、可動式アメニティブース「[withCUBE](#)」の医療防災シーンにおける共同研究を行っています。その一環として、甚大な被害を受けた熊本県人吉市の避難所に「withCUBE」を7月11日に設置しました。避難されている方のプライベート空間や、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のための隔離スペース、緊急時の臨時の療養室等として利用が可能であり、医療・防災現場における多様なニーズに対応しています。

LIXIL は、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。



人吉市の避難所に設置した「withCUBE」

■ 利用検証用「withCUBE」について

LIXIL は、最新のシャワートイレや洗面器などで構成された「withCUBE」を今年4月に受注開始しましたが、医療・防災シーンにおける利用検証のため、熊本赤十字病院の知見をもとに仕様変更し、6月末より共同研究を進めてきました。「withCUBE」は、フレキシブル性と使用者の快適性を追求した空間を目指して設計されており、特にその衛生面に強みがあります。今回設置したものは、通常タイプより大きい4.5畳ほどの空間でエアコンを完備し、コンセントの使用も可能です。避難所において課題となるプライバシーの確保に役立て、さらには新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のための隔離スペースなど、多様なニーズへ対応できます。今回の利用検証から得られたデータをもとに、医療・防災現場における仮設空間の利便性向上と衛生課題の解決を目指します。